



**ULTRA-TRAIL
Mt.FUJI**

ウルトラトレイル・マウントフジ 2022 運営計画書

Ver. 5 2022年1月19日

ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会

I. 大会概要

1. 大会開催要項

大会名 ウルトラトレイル・マウントフジ 2022 「ULTRA-TRAIL Mt. FUJI 2022」(第 10 回目)

開催日 2022 年 4 月 22 日(金)～24 日(日) 3 日間

競技種目

①UTMF165k

- ・距離 約 165.4km 累積標高:+7,577m/-7,619m
- ・スタート会場:富士山こどもの国(静岡県富士市)
- ・フィニッシュ会場:富士急ハイランド(山梨県富士河口湖町・富士吉田市)
- ・スタート時刻 第 1 ウェーブ:4 月 22 日(金)14 時 30 分 500 名(※45 時間制限)
第 2 ウェーブ:4 月 22 日(金)14 時 45 分 500 名(※44 時間 45 分制限)
第 3 ウェーブ:4 月 22 日(金)15 時 00 分 500 名(※44 時間 30 分制限)
第 4 ウェーブ:4 月 22 日(金)15 時 15 分 500 名(※44 時間 15 分制限)
第 5 ウェーブ:4 月 22 日(金)15 時 30 分 400 名(※44 時間制限)
- ・最終制限時刻:4 月 24 日(日)11 時 30 分(*44 時間制限)
- ・募集人数:2,400 名(優先エントリー・一般エントリー・寄付エントリー含む)
一般エントリー:2,400 名から優先エントリーを引いた数

②KAI69k

- ・距離 約 69.2km 累積標高:+3,638m/-3,670m
- ・スタート会場:富士急ハイランド(山梨県富士河口湖町・富士吉田市)
- ・フィニッシュ会場:富士急ハイランド(山梨県富士河口湖町・富士吉田市)
- ・スタート時刻:4 月 23 日(土)11 時 00 分 (*20 時間制限)
- ・最終制限時刻:4 月 24 日(日)7 時 00 分
- ・募集人数:480 名(一般エントリー・寄付エントリー含む)
- *UTMF 第 5 ウェーブスタート後 19 時間 30 分後スタート(UTMF 選手約 1,000 名通過想定)
- * UTMF 第 1 ウェーブスタート後 20 時間 30 分後スタート従来なら TOP 選手到着(本年は無理か?)と
- *寄付エントリー(NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部)は 100 名程度を想定

参加資格

- ・エントリー時及び大会 2 週間前に日本に在住している人(招待選手*は除く)
- ・大会 14 日前までに新型コロナウイルスのワクチン接種(2 回)を完了または大会開催日直前(スタート 72 時間以内)の PCR 検査陰性を証明できること。
- ・大会当日に 18 歳以上の男女で、コースを迷うことなく制限時間内に完走できること。
- ・一般エントリー開始日の2年前(2020年1月6日)から前日(2022年1月6日)までの間に、国際トレイルランニング協会(ITRA)がポイントを認定しているレースに出場・完走し、下記の規定ポイントを獲得すること。
ただし最低1レースはエントリー開始日の1年前(2021年1月6日)から前日(2022年1月6日)までに開催されるレースとする。

・UTMF165k:最大3レースで10ポイント以上*

・KAI69k :最大2レースで3ポイント以上*

*「Virtual UTMF 2021」完走者は特例として参加資格要件を満たすことといたします。

(開催日:2021年4月19日～25 日 / 6ポイント)

- ・2020・21年のエントリー者(寄付エントリー・一般エントリー等を問わず出走権を持っている方)



参加条件

1. レースの距離と、山岳地を一昼夜以上走り続けるという特殊性を十分認識し、必要な訓練を行なっていること。
 2. この種のレースで起こりうる問題に対して、自ら対処できる能力を有していること。
 3. 山岳地で予測されるトラブルや天候の悪化など（低温、強風、雨や雪）に、他に頼ることなく自ら対処できること。
 4. 極限的な疲労、内臓・消化器官の不具合、筋肉などの痛み、軽度のけがが引き起こす肉体的、精神的問題に対して自ら対処できること。
 5. 1)から4)の問題については自らが克服することであり、大会組織が責任を負うものではないと十分認識していること。
 6. 自然の中での活動において安全にかかわる問題に直面した場合、自らがそれぞれの能力によって対応しなければならないことを十分認識していること。
 7. 大会出場中の選手の映像、写真、記事、記録などのテレビ、新聞、雑誌、インターネットなどへの掲載権は主催者に属するものとします。
 8. 「UTMF2022新型コロナウイルス感染防止のための運営方針」を承諾・遵守すること。
- ※2022年のレースにおいて、上記の参加条件に反する行為があった場合は2023年以降の参加をお断りすることがあります。（*制作中）

大会中止・
中断・
コース変更
の基準

下記の理由により主催者が大会の開催、継続が困難であると判断した場合は、大会を中止または中大会開催日を翌週などに延期することはありません。（*バーチャルレースにできないか検討中/中止時の返金基準は検討中）

1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により国や県からの中止要請があった場合
2. 気象警報発令時
3. コース途中の崖崩れ、落石など、選手とスタッフの安全を確保できないと判断されるとき。
4. 災害時。東海地震予知情報/警戒宣言、東海地震注意情報/発令時など。
5. 荒天下などで選手通過によって自然環境を損なう可能性があるとき。
6. その他、主催者が中止すべきだと判断したとき。
7. 大会中止・中断の判断は大会開催日または前日までに大会公式サイトおよび専用サイト(PC、携帯)で発表します。スタート当日に発表する場合は、選手それぞれの登録された携帯電話番号にSMSでも配信します。

エントリー期間

①UTMF165k※二次募集は実施しない。

- ・優先エントリー（国内在住者限定:UTMF2020,2021 にエントリーした方）
2021年12月1日(水)12時～12月8日(水)23時59分 エントリー期間
2021年12月15日(水)～12月24日(金)23時59分 入金期間
- ・一般エントリー*抽選制(国内在住者限定)
2022年1月7日(金)12時～1月14日(金)23時59分
2022年1月28日(金)抽選結果発表
2022年1月28日(金)～2月7日(月) 入金期間
2022年2月18日(金)繰り上げ当選者発表
2022年2月18日(金)～2月25日(金)繰り上げ当選者入金期間

②KAI69k※二次募集は実施しない。

- ・一般エントリー*抽選制(国内在住者限定)
2022年1月7日(金)12時～1月14日(金)23時59分 エントリー期間
2022年1月28日(金)抽選結果発表
2022年1月28日(金)～2月7日(月) 入金期間
2022年2月18日(金)繰り上げ当選者発表
2022年2月18日(金)～2月25日(金)繰り上げ当選者入金期間
- ・寄付エントリー*先着制(国内在住者限定)



2022年1月7日(金)12時～1月14日(金)23時59分 エントリー期間
2022年1月28日(金)～2月7日(月)入金期間

参加費

①UTMF165k

優先エントリー 40,000円(消費税/保険料込み)

一般エントリー 40,000円(消費税/保険料込み)

【関係者外秘】※手数料 国内一般 5.5%、海外一般 6%

※消費税分値上げ

②KAI69k

一般エントリー 26,000円(消費税/保険料込み)

寄付エントリー 80,000円(寄付金 54,000円+参加費 26,000円)

*寄付エントリー参加資格

NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部の環境事業に使う事を目的にした寄付金を
54,000円寄付して頂いた方で、参加資格を満たす当大会へ参加希望の方。

<注意事項>

・寄付金については税制控除の対象になりませんのでご注意ください。

・寄付エントリーを頂いた方の寄付金及び参加費には入金手数料は発生しません。

・NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部の環境事業は、富士山麓のトレイルの環境調査や
トレイル整備等にかかる費用に活用されます。

過去の活動については以下を参照ください。

<https://fuji-trailrunnersclub.com/environmental/>

開催場所

富士山麓(静岡県富士市、富士宮市、山梨県身延町、鳴沢村、富士河口湖町、
富士吉田市、忍野村、山中湖村)

主催

ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会

<構成団体>

・NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部

・UTMF 共同事業体

(医師・福田六花、一般財団法人アールビーズスポーツ財団、リージョンポート合同会社、株式会
社ソトエ)

共催

富士市、富士宮市、身延町、鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、忍野村、山中湖村
御殿場市、裾野市

後援(予定)

スポーツ庁、観光庁、道志村、山梨県、山梨日日新聞社・山梨放送、テレビ山梨、エフエム富士、静
岡新聞社・静岡放送、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、K-mix

名誉大会会長

三浦雄一郎(プロスキーヤー・冒険家)

名誉大会副会長

堀内光一郎(富士急行株式会社取締役社長)

名誉実行委員

共催 10 自治体首長(予定)、

大会会長

鎚木 毅

(NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部代表理事/プロトレイルランナー)



大会代表 福田六花、岡嶋智己、田近義博、千葉達雄
(UTMF共同事業体共同代表)

コンセプト 総距離100マイルにもおよぶ富士山の山麓、登山道、歩道、林道などを走りつなぎます。他に例のないアウトドアイベントを通して、自らに挑戦することの大切さと、トレイルランニングの魅力を紹介します。また、どこから見ても美しい富士山の文化と自然環境の素晴らしさを国内外に伝えていくものです。

大会の理念 「自分自身を探究する」
この大会は他の選手に勝つことやスピードを競うことが目的ではありません。富士山を巡る160kmの長いトレイルの走破は人力による旅への挑戦です。自らの肉体と精神の可能性を押し広げ、その限界を見極めることを目指します。

「自然環境を尊ぶ精神を養う」
日本には古くから自然と共に生きる文化がありました。しかし、現代人はそれを見失いがちではないでしょうか。この大会ではトレイルランニングというアウトドアスポーツを通じ、参加者が自然との共存を実感し、自然を愛し敬う精神を養うことを目指します。

「すべての人々とトレイルを共有する」
トレイルは、山で暮らし、働き、楽しむ、たくさんの人々の営みから作られたものです。その先人たちに敬意を払い、われわれ以外のトレイルを利用する人々とも、その価値を共有し、お互いを尊重し、感動を分かち合うことを目指します。

大会の特長

- ・100 マイルを超えるトレイルランニングレース。(国内最長)
- ・地域の自治体・ボランティアの力強い協力により実現
- ・エイドステーション(休憩所)を交流の場とし地域の魅力を伝える
- ・夏山登山だけでなく富士山周辺アウトドアの魅力を世界に伝える
- ・自然環境に配慮したコース設定と影響調査の実施、競技ルールの徹底

2. イベント・その他

* 新型コロナウイルスの感染拡大防止の為大幅に内容を変更する可能性があります。

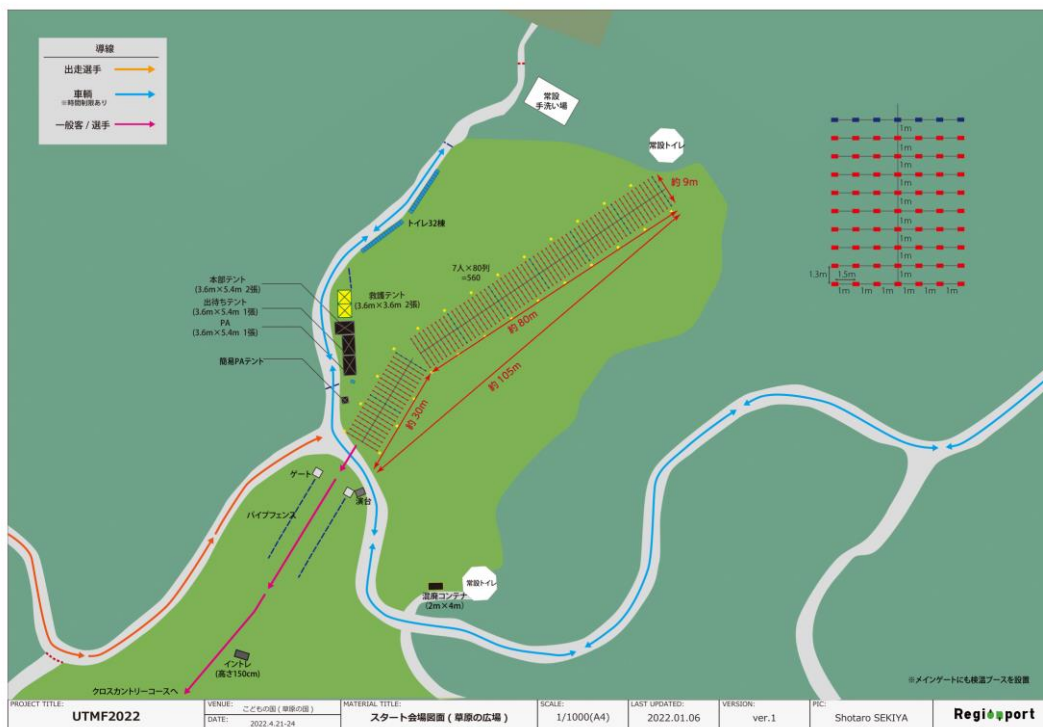
1)UTMF EXPO

大会スポンサーおよび出展者の関係各社が一同に会する日本最大級のトレイルランニングに関する展示・販売。

<日時・会場予定> 4月21日(木),22日(金),23日(土),24日(日) 富士急ハイランド フィニッシュ会場

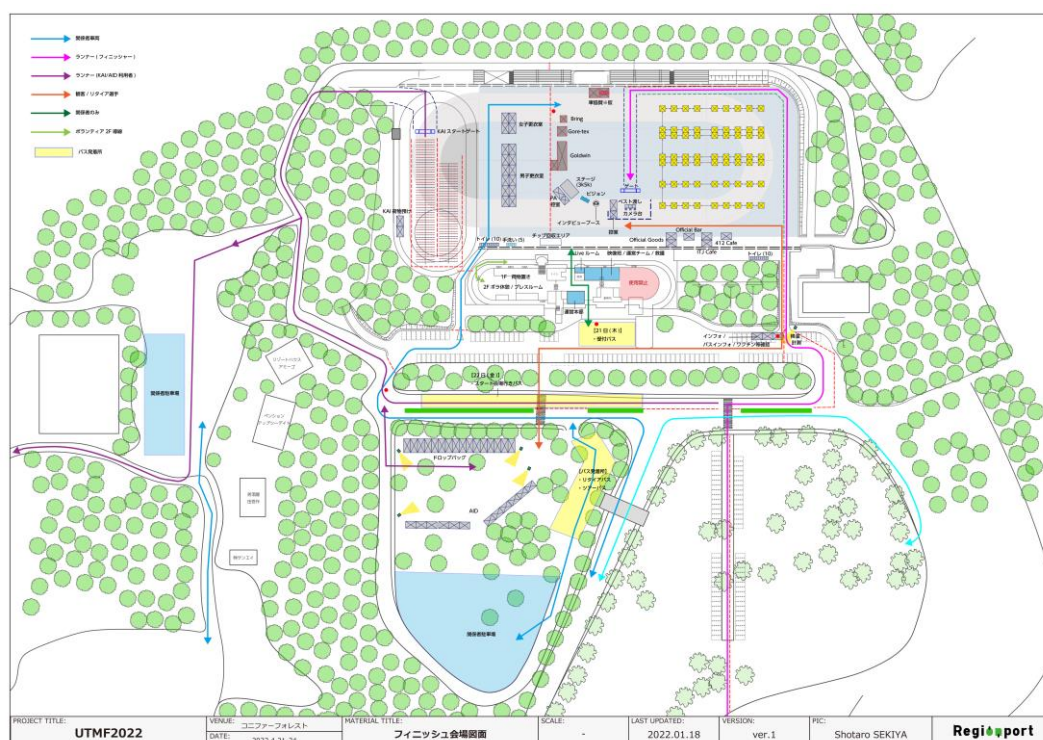
スタート会場図面(2022年1月21日現在)

* 新型コロナウイルス感染拡大防止の為大幅にレイアウトを変更する可能性があります。



フィニッシュ会場図面((2022年1月21日現在)

* 新型コロナウイルス感染拡大防止の為大幅にレイアウト変更する可能性があります。



2) 無料シャトルバス(詳細未定)

3) ツアー・宿泊(詳細未定)

- 大会アクセスツアー
- 富士急トラベルイベントアクセスツアー

3. 大会日程

①UTMF165k

・ナンバーカード引換(*1 サポーター含む)・必携品チェック

4月21日(木) 12時~20時*2 富士急ハイランド コニファーフォレスト(山梨県富士吉田市)
 御殿場高原時之栖(静岡県御殿場市)
 JR 新富士駅(静岡県富士市)

*1: 前日受付のみ完全予約制。サポーター登録含む

*2: 緊急事態宣言時の制約を考慮し変更(20時以降は実施しない)

・競技

4月22日(金)	12時~14時30分	荷物・ドロップバック預け*
	14時00分	開会式
	14時30分	第1ウェーブ スタート
	14時45分	第2ウェーブ スタート
	15時00分	第3ウェーブ スタート
	15時15分	第4ウェーブ スタート
	15時30分	第5ウェーブ スタート

4月24日(日)	11時~12時	表彰式・閉会式
	11時30分	制限時刻

②KAI69k

・ナンバーカード引換・必携品チェック

4月22日(金) 12時~20時*2 富士急ハイランド コニファーフォレスト(山梨県富士吉田市)

*1: 前日受付のみ完全予約制。

*2: 緊急事態宣言時の制約を考慮し変更(20時以降は実施しない)

・競技

4月23日(土)	9時~10時00分	荷物・ドロップバック預け*
	10時30分	開会式
	11時00分	スタート
4月24日(日)	7時00分	制限時刻
	11時~12時	表彰式・閉会式

<表彰対象 UTMF165k,KAI69k 共通>

- ① 男子総合 1~10位、女子総合 1~10位
- ② ニューヒーロー(29歳以下で顕著な成績の選手男女各1名)
- ③ ベテラン(40~49歳) 男女 1位~3位 * 総合入賞した選手は表彰対象外
- ④ マスター(50歳以上) 男女 1位~3位 * 総合入賞した選手は表彰対象外
- ⑤ レジェンド(60歳以上) 男女 1位~3位 * 総合入賞した選手は表彰対象外

3)コース・進行表・エイド箇所(2021年9月1日現在)

UTMF165k コース 距離: 165.4 km 累積標高(+): 7,577 m 累積標高(-): 7,619m

* 新型コロナウイルスの感染拡大防止の為大幅にレイアウトを変更する可能性があります。

* 2022 年はエイドでのサポート行為実施で検討中。ドロップバックは1箇所(U6:富士急ハイランドにエイド追加)想定

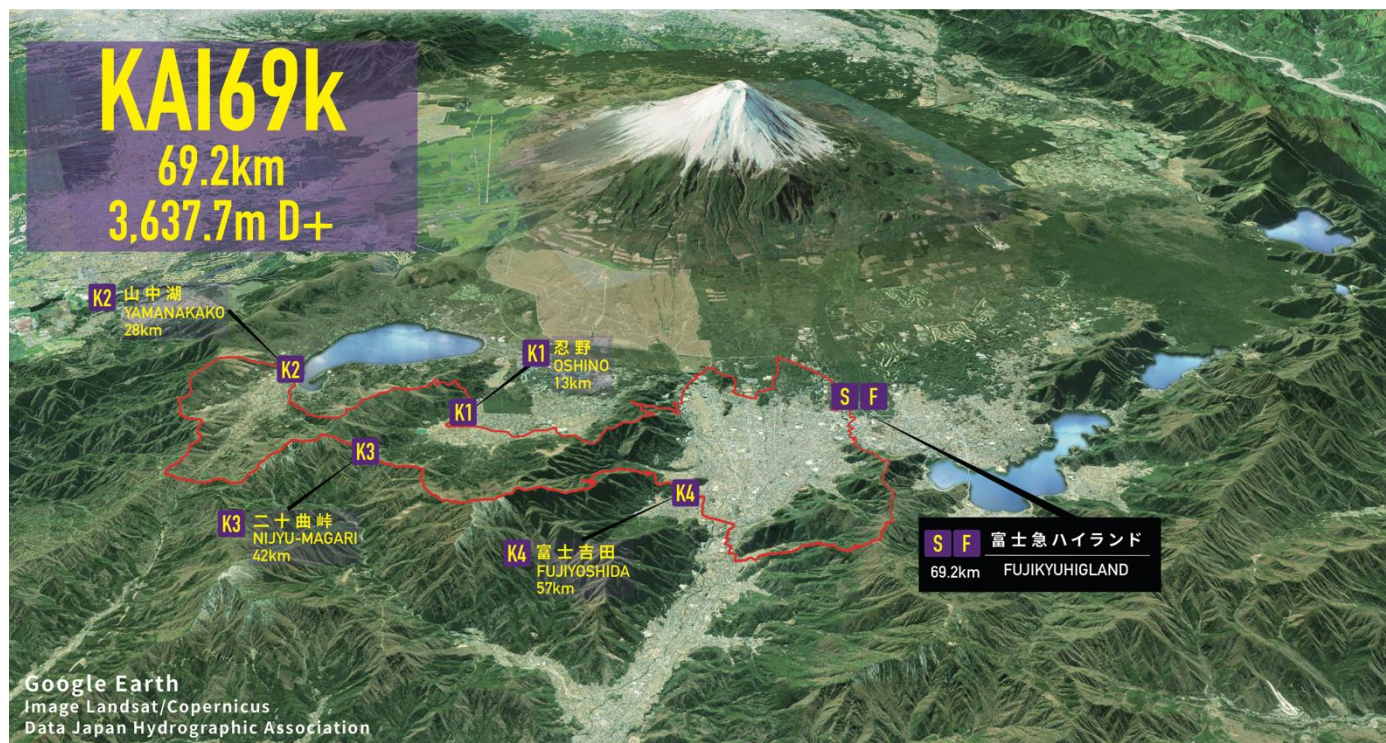


スタート:	富士山こどもの国(静岡県富士市富士山こどもの国)
U1:23km	富士宮(静岡県富士宮市大原学園富士宮ビガー倶楽部)
U2:52km	麓(静岡県富士宮市旧朝霧グリーンパーク) * サポート
U3:62km	身延町本栖湖(山梨県身延町本栖湖いこいの森キャンプ場)
U4:74km	富士河口湖町精進湖(山梨県富士河口湖町旧精進小学校) * サポート
U5:91km	河口湖勝山(山梨県富士河口湖町勝山ふれあいドーム)
U6:98km	富士急ハイランド(山梨県富士河口湖町・富士吉田市富士急ハイランド)*ドロップバック/サポート
U7:111km	忍野(山梨県忍野村忍野村民交流公園(笹尾根農業農村公園))
U8:124km	山中湖きらら(山梨県山中湖村山中湖きらら)*サポート
U9:138km	二十曲峠(山梨県忍野村二十曲峠)
U10:153km	富士吉田(山梨県富士吉田市明見湖公園)
フィニッシュ:165.4km	富士急ハイランド(山梨県富士河口湖町・富士吉田市富士急ハイランド)

KAI69k コース 距離: 69.2 km 累積標高(+): 3637.7 m 累積標高(-): 3670.2 m

* 新型コロナウイルスの感染拡大防止の為大幅にレイアウトを変更する可能性があります。

※ドロップバックなし/サポート禁止/仮眠所利用禁止で検討中。



- スタート:** 富士急ハイランド(山梨県富士河口湖町・富士吉田市富士急ハイランド)
- K1:13km** 忍野(山梨県忍野村忍野村民交流公園(笹尾根農業農村公園))
- K2:28km** 山中湖きらら(山梨県山中湖村山中湖きらら)
- K3:42km** 二十曲峠(山梨県忍野村二十曲峠)
- K4:57km** 富士吉田(山梨県富士吉田市明見湖公園)
- フィニッシュ:69.2km** 富士急ハイランド(山梨県富士河口湖町・富士吉田市富士急ハイランド)

II 競技規則(2021年10月4日現在)

* 新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に内容を変更する可能性があります。

基本ルール

- 1.以下の事項を理解し、責任を負うことを本大会参加の基本条件とします。
- 2.本大会に参加する選手は、競技中であっても日本国内・自治体の法令、また一般社会正義に基づく活動責任を負います。
- 3.UTMF は山岳地を含む自然の中を一昼夜以上も走り続ける競技です。主催者は選手が予測・制御できないリスクを最小限にとどめるよう準備しますが、レース中の危険を避け、自身の安全を守るのは選手の責任です。そのため、選手は予測されるトラブルや天候の悪化(低温、強風、雨や雪など)に対応できる技術・知識、装備、体力、自己管理能力を備えていることが求められます。その対応の結果には選手自身が責任を負います。また、アウトドアにおいて事故に遭遇した選手の最も近くにいるのは選手です。他の選手の安全を守ることに貢献することが、全ての選手に期待されます。
- 4.本大会はUTMF2022 新型コロナウイルス感染防止のための運営方針を承諾・遵守することを大会参加条件といたします。

参考:山中湖 4月25日 気象状況(2016-2020)

	山中湖(標高 992m)					
	降水量(mm)		気温(°C)		風速(m/s)	
	平均	最低/最高	平均	最低/最高	平均	最低/最高
0:00	0.3	0/1.0	8.3	2.7/13.8	0.7	0/2.2
3:00	0.4	0/1.5	7.9	0.9/13.6	1.0	0/4.1
6:00	1.7	0/8.5	7.3	-0.3/13.8	1.0	0/4.0
9:00	5.0	0/25.0	13.2	8.5/18.4	1.9	0.2/2.8
12:00	0	0/0	16.2	12.0/19.9	3.0	1.9/3.7
15:00	0	0/0	16.1	11.4/21.8	2.8	1.3/4.4
18:00	0	0/0	13.0	8.7/17.7	1.3	0.5/2.3
21:00	0	0/0	10.1	2.7/16.8	0.4	0.2/1.0

※気象庁のデータを元に作成

※今大会のコースの大部分(約 57km)が標高 500m~1600m の間にあります。気温は 100m 上昇すると 0.6°C下がる と言われていて、また、風は 1m 毎に体感温度が 1°C下がると言われています。

- 4.レースコースはマーキングテープ、指示看板などで誘導されています。さまざまな自然環境の下で誰に頼ることなくこれらをたどり、ルートを維持することは選手の責任です。また、ルートを外れた場合は地図などを使い、自力でルートに戻ることも選手の責任です。ルートを外した場合、緊急事態でない限り、本部の緊急番号に電話をすることは避けてください。その電話は、他の誰かが本当に必要な通話をすることを妨げる可能性があります。
 - 5.レース前、レース中に主催者から提供される公式情報を確認することも選手の責任です、本競技規則に沿ってなされる指示に従ってください。
 - 6.選手は常に自然環境と、トレイルを共有する他者を尊重してレースを行ってください。
 - 7.競技が適切に行われるように、主催者は可能な用具・用品の準備、コース整備を行い、必要に応じて各所にスタッフを配置します。また、救助および医療援助体制を準備します。
 - 8.応急処置を行う救護所はすべてのエイドステーションにあり、医師または看護師が待機しています。ただし、エイドステーションで行うのは応急処置だけです。
- ### 1. 参加条件と選手の責任



ここには、主催者が提供する競技の運営環境と参加選手が守るべき事項があります。競技規則に従わないときやこれらの注意を怠ったときには、その場で失格となったり、レースタイムに1時間、3時間、もしくは6時間のペナルティタイムが加算されたりすることがあります。また、次年度からの参加を断ることがあります。

2. 自然保護について

本レースのコースは、富士箱根伊豆国立公園に指定された区域や希少動植物の生息するエリア等を有する貴重な自然環境の中で開催されています。

かけがえのない森林生態系に悪影響及ぼさぬよう、以下のルールを設定しています。

主旨を十分に理解した上で、以下のルールを厳守してください。

1. 全コースにおいてストックの使用を禁止します。また、ストックの代わりとなる木の枝などの使用も禁止します。
2. コース内で仮眠することを禁止します。これは、自然環境に対する影響が大きく、しかも「緊急救護を必要としている」と間違われる可能性があるためです。
3. コースの角をショートカットするなど、トレイルからはずれることを禁止します。自然保護上必要な箇所には、追い越し禁止その他の制限を設定します。
4. コース上および全区域で動植物、菌類、岩石などを採取、損傷することを禁止します。
5. ゴミは絶対に捨てないでください。
6. 用便は各エイドステーションのトイレを利用してください。止むを得ないときは携帯トイレを使用し、紙を使った場合は必ず持ち帰ってください。
7. 外来種子の持ち込みを防ぐとともに、居住市街地の植生を高山地帯へ持ち込まないため、事前に靴底を洗浄したシューズを持参してください、またその靴でスタートしてください。同じ理由で、コース途中、数か所の登山口に靴底洗浄用のマットを設置します。スタッフの指示に従って用意されたブラシで靴底の泥や植物種子を落としてください。
8. 大会当日の大会開催に当たって、安全面で問題ない場合でも、トレイルの状況が多数の参加者の利用に耐える事ができないと判断した場合、歩行区間の設定やコースの変更、大会中止の判断をすることがあります。

3. 他者と地域への配慮について

1. ケガ、病気などで身動きできない選手や大会関係者と遭遇した場合は、その救助を優先し、速やかに救護本部へ連絡してください。救護本部の電話番号はナンバーカードに明記してあります。また、本部連絡の際は可能な限りその選手のナンバーを確認し、それを伝えてください。ナンバーが分からない場合は性別や服装の色などを確認してください。これは本部による対応をスムーズにするためです。
2. コース内で横になっている、あるいはしゃがみ込んでいる選手を見つけたときには、必ず声をかけて体調、症状を確認してください。救護が必要な場合はその作業を優先し、救護本部へ連絡してください。
3. コースは本大会が占有をしているわけではありません。一般利用者(登山者、ハイカーなど)に配慮しその通行を妨げてはいけません。追い越し禁止区間では選手だけでなく、一般利用者を追い越すことも禁止します。また、追い越し禁止区間外でも一般利用者を追い抜く場合は、道幅の広い安全な場所で、速度を落とし、歩いて追い抜いてください。追い抜くとき、すれ違うときには挨拶を忘れないでください。同様の原則は市街地でも適用されます。歩道のある道路では必ず歩道を通行してください。
4. コース上に存在するすべての建造物などに傷をつけないよう注意してください。
5. コースには私有地や自衛隊演習場など、通常は立ち入りが禁止されている特別な区域があります、指定されたコース以外には絶対に立ち入らないでください。
6. コース周辺には居住区域があることを認識し、大きな音をたてたり騒いだりしないでください。熊鈴禁止区間では、熊鈴が鳴らないようにしてください。
7. 感染予防の観点から、可能な範囲で周囲の人と距離を空けてください。林道や道路などで他の競技者との間隔が確保できる場面では、前の人の呼気の影響を避けるため、並走やあるいは斜め後方に位置取ることを奨励します。
8. 感染予防の観点から、競技中に唾や痰を吐かないでください。

4. 誘導、救助及び医療援助について

医師と救護者には、これ以上競技を続けられない選手に競技を中止させる(棄権もしくは失格させる)権限があります。医師もしくは救護者に競技の中止を宣告された際は、ICチップをスタッフに返却してください。その際、ナンバーカードにリタイアだとわかる印をつけることがあります。

5. IC チップについて

- 1.IC チップと地面に敷いた計測マットにより、選手の記録測定、出走人数と完走人数の確認、および各エイドステーションやチェックポイントの通過確認を行います。
- 2.IC チップは両足のシューズそれぞれにひとつずつを装着しなければいけません。
- 3.レースを終了した選手は IC チップをスタッフに提出してください。
- 4.棄権した選手、失格となった選手は IC チップを各エイドステーションのリタイア受付に返却してください。

6. 関門と計測について

- 1.関門ぎりぎりに到着する選手の安全を図るために、関門時刻はエイドステーションの入口と出口のふたつを設けます。それぞれ指定の時刻までに通過(関門に入る・関門を出る)できない場合は失格になります。
- 2.エイド出口を出ても、入口関門時刻前であれば、そのエイドに戻ることができます。エイドに戻るとき、そして再びエイドを出るときには、専用の通路を使って必ずスタッフにその旨を伝えてください。この場合、出口関門時刻前にエイドを出ないと失格になります。
- 3.天候やコースの状況、レースの進行状況によって関門時刻を変更する事があります。その際はエイドステーションの公式掲示板、登録された携帯電話番号へ SMS でお知らせします。

7. コース上の誘導と案内について

- 1.主催者は土地所有者および管理者の許可を得て、必要最低限のマーキングテープや表示看板を設置します。マーキングテープは特に迷いやすい場所を除き、およそ 100m に 1 本の間隔で設置します。マーキングテープが 200m 以上進んでも見当たらないときには、コースを間違えています。来た道に戻ってコースに復帰してください。
- 2.主催者は、選手が予測・制御できないリスクを最小限にとどめるようにコースを準備します。危険箇所には印をつける、ロープを張るなどしてリスクの低減を図っています。選手はそれらの指示に従ってください。主催者が必要と判断した場所にはスタッフやガードマンが立ち、選手の安全を確保するために交通整理をすることがあります、指示に従ってください。
- 3.安全のためにスタッフやガードマンが立ち、選手を誘導している箇所でも、マーキングテープや看板を確認して正しいコースをたどることは選手の責任です。
- 4.追い越し禁止区間、その他の制限を設定する案内が設置された区間ではその指示に従ってください。
- 5.レース開始後に選手に伝えなければならない情報は、エイドステーション、ウォーターステーションの公式掲示板に掲示します。また、特に重要な情報は、登録された携帯電話番号へ SMS でも配信します。エイドステーション、ウォーターステーションで公式掲示板や SMS を確認することは選手の責任です。



誘導看板



マーキングテープ

8. リタイア(棄権)について

- 1.レースを続ける自信が持てず、レース途中で棄権する場合は、エイドステーション*の計測スタッフにリタイアの申告をしてください。* 原則 U3 本栖湖ではリタイアできません。
- 2.コース上でのリタイア
コース上でリタイアできるのは緊急時、またはケガなどにより自力で移動できない場合のみです。救護本部に連絡をし、その指示に従ってください。
- 3.コース上に留まること
自力移動が難しく、なおかつ救護本部への連絡ができない場合、コース上(確実に見える範囲)に留まってください。コース上に留まる限り、スイーパー等があなたを確実に発見できる確率は大きくなります。それはあなたの安全を守る最後の手段となります。

9. 装備について

装備の総量はスタートのとき、そしていずれのエイドステーションを出るときにも 2 kgを超えていなければなりません。さらにコース上すべての場所において 1 kg以下になつてはいけません。

レース途中で必携品のチェックを行います。必携品が欠けていた場合はその場で失格になることがあります。

必携品ウェアの保温性、防水性などのレベルは、選手自身の責任で決定してください。選手自身が選択し届け出たウェアを主催者はその選手の必携ウェアと判断します。

全ての装備は、持つだけでなく使い方を身につけておいてください。

以下は必携品のリストです。

必携品(装備として必ず携行するもの)

1. 詳細コースマップ。大会公式サイトに掲載されている詳細図を紙にプリントしてください。(* 1)
2. エントリーの際に番号を届け出た携帯電話。救護本部の電話番号(ナンバーカードに明記してあります)を登録し、番号非通知にせず十分に充電し、主催者からの SMS による緊急連絡を受けられる状態にしておいてください。
3. 携帯コップ(150cc 以上)。エイドステーションに紙コップの用意はありません。
4. 水。スタートおよび各エイドステーションを出発するときには 1ℓ以上持っていなければいけません。
5. 食料。
6. ライト 2 個、それぞれの予備電池。低温では電池の寿命が短くなります。
7. 点滅ライト。夜間の一般公道で後方からの走行車両に認識されやすいよう、ザックなどにつけてください。
8. サバイバルブランケット(130cm 以上 × 200cm 以上)。
9. ホイッスル。
10. テーピング用テープ(80cm 以上 × 3cm 以上)。(* 2)
11. 携帯トイレ。(* 3)
12. 雨天に備えてフードつきレインジャケットとレインパンツ。どちらも〈ゴアテックス〉あるいはそれと同等の防水、透湿機能を持ち、縫い目をシームテープで防水加工してあるもの。
13. 保温のためのフリースなどの長袖シャツ。綿素材は認められません。(* 4)
14. 保温のための足首までを覆うズボンあるいはタイツ。または膝までを覆うタイツと膝までを覆うハイソックスの組み合わせ。いずれも綿素材は認められません。(* 5)
15. 保温のための手袋、耳までを隠す帽子。(* 6)
16. 鼻と口を覆い飛沫拡散を防止できるマスク 2 枚以上。布製の場合は 2 層以上のもの。(* 7)
17. ファーストエイドキット(絆創膏、消毒薬など)。
18. 保険証(コピーは不可です)。
19. 配布されるナンバーカード、IC チップ。
20. 以上の必携品と下記にて紹介する「特に勧める携帯品」を収納できるザックまたはバッグ。

* 1 地図データを携帯電話などにダウンロードしておいても、それをマップとして認めないことにしました。電池切れ、通信・表示不良などで使えない可能性があるからです。必ず紙にプリントした詳細図を用意してください。雨天時でも使えるように透明なビニール袋などに入れてください。

* 2 骨折などケガの救急処置のためだけでなく、ザックのストラップなど、装備が壊れたときの補修など、多くの用途にも使える強いテープです。

* 3 使用した場合は次のエイドステーションで未使用のものと交換できます。

* 4 保温のための上半身の衣料は「暖かい空気の間」を作ることができる起毛したミッドウェアと称されるフリースやウール、薄手のダウンなどのことです。薄手のアンダーウェアは認められません。

* 5 保温のための下半身衣料は=A.足首までを覆うズボン、B.同じ足首までを覆うタイツ、C.丈の短いタイツとハイソックスのことです。

* 6 ウール、ポリエステル製ニットキャップなどのこと。

* 7 スタートエリア(スタートしてからコース上 500m まで)とエイドステーション等(飲食時を除く)では必ず着用してください。それ以外の競技中は着用の義務はありません。

- * 必携品とは最低限の装備のことです。この厳しいレース環境で、二昼夜走り続けることを認識し、自らの安全と健全な体調を確保するために、さらに必要と思われる装備を加えてください。
- * コース上で疲労、ケガなどで動けなくなった場合、主催者は連絡を受けてから 3 時間以内に現場に到着できるように活動しますが、要請が多数重なったときや、現場がコースを外れているとき、悪天候のときはその限りではありません。救助隊が到着するまでに 6 時間以上もかかることもあります。寒風や氷雨の中で 6 時間コース上で待機しなければならないことも想定して、装備を選んでください。

特に勤める携帯品について

必携品のリストは、全ての選手にとってこのレースを走るために十分な装備ではありません。各選手の技量や身体能力、当日の気候によって必要な装備は違います。各自必要な装備を見極め、追加して携帯してください。また、事前にそれらを着用して氷点下気温の高山、大雨の中での長時間に及ぶランニングなどを体験し、それらのウェアがほんとうに自分のカラダを守ってくれるのか否かを知っておきましょう。

以下は特に勤める携帯品のリストです

特に勤める携帯品

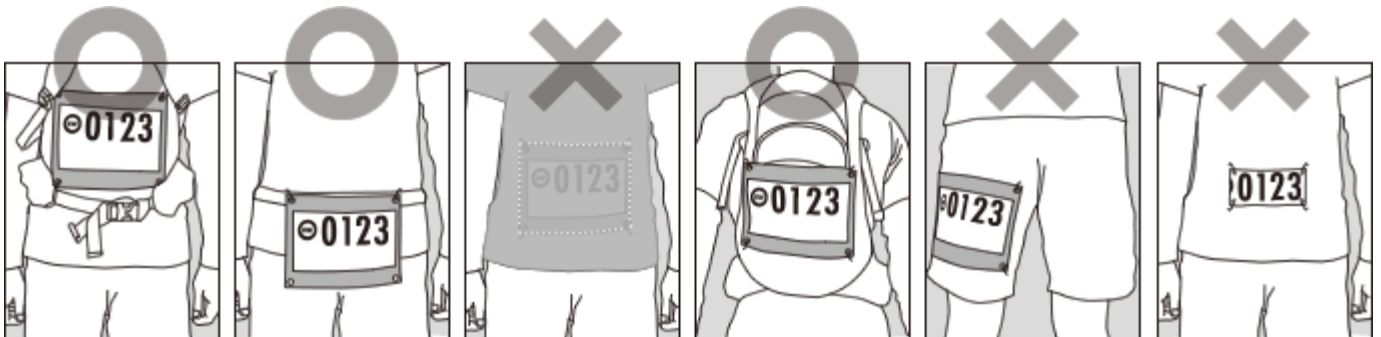
- 1.トレイルランニングシューズ
- 2.コンパス
- 3.熊鈴(*1)
- 4.着替え
- 5.日焼け止め
- 6.ワセリン
- 7.筆記用具
- 8.現金
- 9.消毒用の除菌ティッシュやアルコールスプレーなど

- *1 熊鈴は昼夜を問わず、近隣住民にとって非常に不愉快な騒音です。住宅地は熊鈴禁止区間として「熊鈴禁止」の看板を設置しますので、鳴らないようにしてください。

10. ナンバーカード(ビブ)の取り付けについて

間違ったナンバーカードの取り付け方をすると、失格になる可能性があります。

- 1.誤ったナンバーカードの取り付け方をすると、失格になる可能性があります。
- 2.ナンバーカード(ビブ)は上半身前面と背後に、それぞれ 1 枚ずつ、安全ピンやビブベルトなどを使って、よく見えるように、衣類で隠れないように、つけてください。
- 3.トランク、タイツ、パンツなど下半身につけることは許されません。
- 4.カードの周囲を折りたたみ、サイズを小さくしてつけることは許されません。



11. ドロップバッグについて(UTMF165k のみ)

- 1.レース途中の「U6 富士急ハイランド」で、スタート前に預けた荷物(ドロップバッグ)を受け取ることができます。
- 2.そこまでの区間で使い終わった用具をドロップバッグに戻すこともできます。
- 3.ドロップバッグは使用の有無を問わず、「U6 富士急ハイランド」に設置しています。レース終了後各自で回収してください。

12. その他の遵守事項・禁止事項等

1. 「UTMF2022新型コロナウイルス感染防止のための運営方針」を遵守してください。
2. イヤホンの使用を禁止します。
3. 不正行為をすること(乗り物の使用、代走、その他法律、条例に抵触する行為)を禁止します。

13. 主催者の責任と義務

選手の故意ではないコース上の器物破損(対動植物、対物の事故、トレイルの崩壊など)に対して責任を負います。

14. 免責事項

大会主催者は本大会に関わる全ての人の新型コロナウイルス感染に対する一切の責任を負いません。

15. エイドステーションと私的サポートについて

* 新型コロナウイルスの感染拡大防止の為内容を変更する可能性があります。

1. KAI69k の出場者は私的サポートおよび仮眠所の利用を禁止いたします。
2. UTMF165k の出場者は主催者が定めた場所でのみ私的サポートを行う事ができます。詳細な場所やルールは後日発表いたします。
2. エイドステーションは食料や飲料が用意されています。(場所によっては飲料だけのエイドもあります。)
3. 主催者が用意するエイドステーションの飲食物は、選手自身がそこに行き、選手自身が受け取ってください。感染予防のため、飲食物の取り扱いには必ずエイドスタッフの指示に従ってください。
4. 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外(例えばコース上)に捨てることを禁止します。
5. 火器の使用が制限または禁止されるエイドステーションがあります。
6. 市街地や別荘地などの居住地域では、地元住民の方々に迷惑ですので応援はご遠慮ください。
7. コース上にある自動販売機、店舗の利用は可能です。ただし、故意にコースから外れることは禁止します。

16. ヘルスポリシー

本大会は世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が発行している世界アンチ・ドーピング規程の全てのルールを受け入れ、そのルールに沿って開催されます。

各参加者は次の内容に同意するものとします。

1. 世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が発行している世界アンチ・ドーピング規程の全てのルール(特にアスリートに関する箇所)を受け入れること。
世界アンチ・ドーピング規程-国際基準(公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構)
<https://www.playtruejapan.org/code/>

注意事項、その他レースに関する情報

1. 大会の映像、写真、記事、記録などについて

1. 主催者は選手やサポーターの映像、写真、記事、記録などをテレビ、新聞、雑誌、インターネットなどで公にすることがあります。
2. 大会の映像、写真、記事、記録などは著作権法などで保護されています、主催者の許可なく使用(放送、出版、インターネット配信なども)することはできません。
ただし、選手やサポーター自身が撮影した映像、写真を私的に使用する場合はかまいません。
3. 大会は国際トレイルランニングレース協会(ITRA)及び、UTMB2022 のクオリファイレースの申請を予定しております。大会公式リザルトは ITRA, UTMB にそれぞれ提出・共有されます。

2. 環境保全について



大会に参加するときは、公共交通機関の利用や 1 台の車に乗り合わせるなどして、エネルギー消費と二酸化炭素排出の抑制にご協力ください。

3. 他者と地域への配慮について

レースを支えてくれる関係者や地元の人々、そしてボランティアに対する感謝の気持ちを忘れないでください。

4. 救助及び医療援助について

- 1.コース上で救助が必要な場合を想定して、救助スタッフは 3 時間以内に現場に到着できるように待機しています。ただし、救助要請が重なったとき、コースから離れた場所からの救助要請、また救助場所が特定できない場合は、スタッフの到着までに 6 時間以上かかることもあります。
- 2.救護本部への電話の中には、緊急でも救助でもなく「閉門時刻に間に合わないから車に収容してほしい」=もちろん失格になります、などが多数ありました。いずれもお断りしましたが、このような連絡が増えるほど、救助スタッフは時間をとられ、電話はつながらなくなり、本当に救助を必要としている人の救助を遅らせてしまいます。救護本部に電話をかけるときには、本当に自分に救助が必要かどうか、もう一度考えてから行ってください。
- 3.救護本部に電話をするときは、地図を手元に出して、現場がどこなのか正しく説明できるようにしてください。
- 4.詳細図に記載されている地点番号(B05 などの番号)は、現地の看板にも記載されています。救助要請の際にはこの番号を使って現場を説明してください、スタッフもスムーズに対応できます。
- 5.主催者が必要だと判断すれば、大会関係者以外の救助隊を呼ぶことがあります。この場合、かかった費用は救助された方の負担となります。
- 6.医師またはスタッフが必要と判断すれば病院へ搬送することもあります。その際の医療費は自己負担になります。また、病院からフィニッシュ会場または自宅までの移動は選手自身の判断と責任で行ってください。その費用も選手の負担となります。
- 7.コース上で車に収容されたなかで、病院搬送の必要がない選手は主催者の判断で近くのエイドステーションに運ばれます。棄権もしくは失格とみなされるので、その計測スタッフに IC チップを返却してください。
- 8.主催者は賠償責任および選手の傷害保険、大会中止保険に加入していますが、選手のみなさんは保険に入っておくことをおすすめします。

主催者が加入している傷害保険の補償範囲は以下の通りです。

- 死亡、後遺障害:500 万円
- 入院(日額):3,000 円
- 通院(日額):2,000 円

5. コース上の誘導と案内について

- 1.コース誘導テープや看板は大会直前に設置され、終了後すぐに撤去されます。
- 2.コースアウトしたときに速やかに復帰できるよう、必携品のコース詳細図を活用してください。
- 3.事前に詳細図をよく読み、コースを十分に把握しておいてください。

6. 大会中止・中断・コース変更の基準

下記の理由により主催者が大会の開催、継続が困難であると判断した場合は、大会を中止または中断いたします。大会開催日を翌週などに延期することはありません。(*バーチャルレースにできないか検討中/中止コース変場合の返金基準は検討中)

- 1.新型コロナウイルス感染拡大の影響により国や県からの中止要請があった場合
- 2.気象警報発令時
- 3.コース途中の崖崩れ、落石など、選手とスタッフの安全を確保できないと判断されるとき。
- 4.災害時。東海地震予知情報/警戒宣言、東海地震注意情報/発令時など。
- 5.荒天下などで選手通過によって自然環境を損なう可能性があるとき。
- 6.その他、主催者が中止すべきだと判断したとき。



7.大会中止・中断の判断は大会開催日または前日までに大会公式サイトおよび専用サイト(PC、携帯)で発表します。スタート当日に発表する場合は、選手それぞれの登録された携帯電話番号にSMSでも配信します。

7. 大会開催による影響調査について

大会開催前と後にコースの整備、清掃イベントを行う予定です。選手の参加は義務ではありませんが、大会の意義を考え、多くの方に参加していただくことを望みます。

環境活動の内容は以下のアドレスから見るすることができます。

<http://www.ultratrailmtfuj.com/environmental/activities/>

環境省のガイドラインなどに沿って、大会による自然への影響の調査を継続的に行い、その結果を大会公式サイト内で公表します。

8. 申し込みのキャンセル・変更について

- 1.入金手続き完了後は、いかなる理由であっても種目の変更、申し込みのキャンセルはできません。参加費は返金いたしません。
- 2.払込期限後に支払手続きをされても申し込みは無効となります。この場合、所定の事務手数料を差し引いて返金いたします。
- 3.大会参加の権利を第三者に譲渡することはできません。

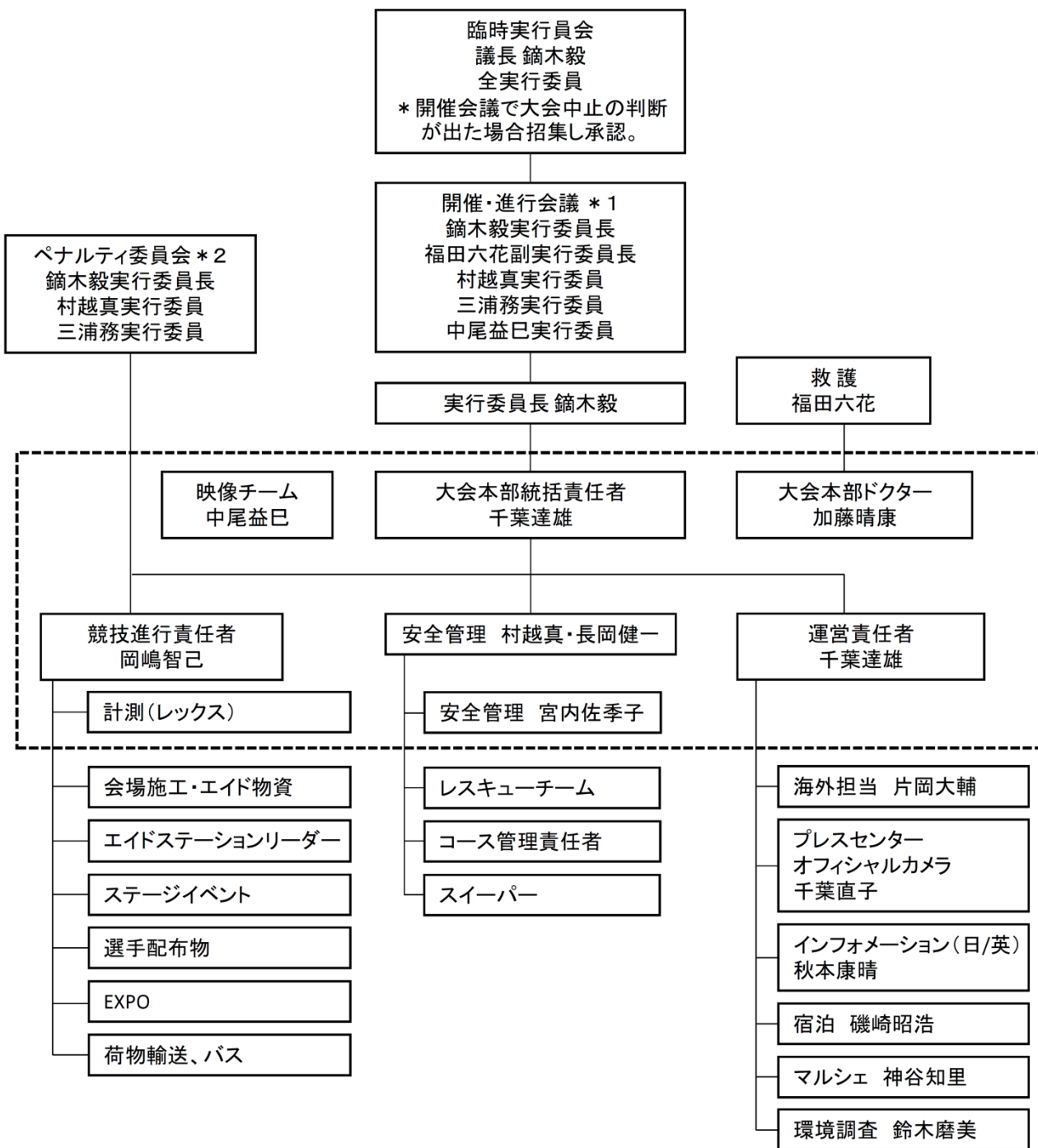
9. レース後について

- 1.フィニッシュ会場に休憩所がありますが、多くの方が休憩できるように仮眠は控えてください。
- 2.フィニッシュ、リタイア、失格後の宿泊に困ることがないように、必ず全日宿泊場所を予約してください。
- 3.レースを中止(失格、棄権)した場合、その場からフィニッシュ会場まで収容バスまたはサポートの車を使って戻ることが出来ます。タクシーなどの費用は自己負担です。
- 4.ドロップバッグは U6 富士急ハイランドに運ばれます。
- 5.ドロップバッグを受け取るにはナンバーカードの提示が必要です。選手はそれまではナンバーカード捨てずに保管してください。

Ⅲ.安全管理体制及びコースの迂回について

1.組織図について

大会期間中組織図 (*予定)



*** 1 開催会議**

- ・大会開催判断を行う。議長は鍋木毅実行委員長。大会中止の判断が出た場合は全自治体の実行委員を招集して臨時実行委員会を開催し最終決定。(委員会開催が難しい場合は全実行委員に承諾・確認を得る)

進行会議

- ・競技中の閉門延長やコース変更の判断を行う。レース中緊急時は鍋木毅実行委員長のみの決済のみでもできるものとする。

*** 2 ペナルティ委員会**

- ・装備品チェックの実施及びその際の失格宣告権限がある機関
- ・ペナルティの宣告と抗議の対応後の正式決定

2.コースについて

・全コースの調査を事前に行い、コースの安全を確かめた上で大会を開催いたします。

コース実地調査者(2021年9月現在予定)

福田六花(共同代表:兼山梨県側コースディレクター)

千葉達雄(共同代表:兼大会ディレクター兼静岡県側コースディレクター)

長岡健一(大会安全管理ディレクター/UIAGM 国際山岳ガイド連盟・国際山岳ガイド)

岡嶋智己(共同代表兼競技ディレクター、宮内佐希子(以上大会事務局))

・以下の区間に関しては大会開催3日前までに土壌のぬかるみによる歩道への影響がある「または沢からの出水が予想される」と判断した場合迂回コースに変更する。(詳細コースマップ参照)

- ①天神山自然観察の森
- ②天子山地(天子ヶ岳～長者ヶ岳～熊森山)
- ③富士宮市麓・根原地区
- ④中ノ倉山
- ⑤山伏峠付近
- ⑥杓子山

・参加者に対して事前にコースの気象・天候の特徴を周知します。

※迂回コースは別紙参照

1. エイドステーション・救護体制について

* 新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に内容を変更する可能性があります。

・選手の給水給食休憩の為に、以下の場所にエイドステーションを設置する。エイドステーションには、選手の通過時間帯に医師または看護師、救護スタッフを常駐させる。

※U=UTMF165k エイドステーション、K=KAI69k エイドステーション

	名称	市町村	医師・看護師の配置	通過人数(最大)
スタート	富士山こどもの国	富士市	医師・看護師	2,400名
U1	富士宮	富士宮市	医師・看護師	2,400名
U2	麓	富士宮市	医師・看護師	2,280名
U3	本栖湖	身延町	看護師	2,280名
U4	精進湖民宿村	富士河口湖町	医師・看護師	2,200名
U5	河口湖 勝山	富士河口湖町	医師・看護師	2,150名
U6	富士急ハイランド	富士吉田市	医師・看護師	1,900名
U7/K1	忍野	忍野村	医師・看護師	2,400名
U8/K2	山中湖きらら	山中湖村	医師・看護師	2,300名
U9/K3	二十曲峠	忍野村	医師・看護師	2,300名
U10/K4	富士吉田	富士吉田市	医師・看護師	2,200名
フィニッシュ	富士急ハイランド	富士河口湖町 富士吉田市	医師・看護師	2,200名

〈救護および医療援助の基本体制〉

- 1) 競技上のリスクが適切にコントロールされるために、大会実行委員会では可能な限りのコース整備と、救助および医療援助体制を準備する。選手はトレイルランという自然の中で行われる競技に危険が伴うことを十分に認識し、傷病、事故などに対して、自己の責任において大会に出場する。
- 2) 応急処置の救護所は基本的にエイドステーションに置かれている。これらの救護所は AED が置かれ大会本部、安全管理本部と無線および電話でつながっている。大会開催中、大会本部・安全管理本部は山梨県富士河口湖町に置かれている。
- 3) 応急処置は、参加登録の有無に関わらず、本大会に関係するあらゆる人々を危険な状況から救助するために

行う。

※環境やその状況により、援助が到着するまでに時間が長くなる場合がある。

そのような時のため、選手にはファーストエイドキットを装備することが義務づけられている。

- 4) 医師と救護者には、下記の権限がある。
 - ・これ以上競技を続けられない選手に、競技を中止させること。
- 5) レースを中止した場合、その場からフィニッシュ会場まで収容バスまたはサポートの車を使って戻ることが出来る。タクシーなどを呼ぶ場合の費用は自己負担とする。
- 6) 要救護者にその必要があると判断された場合、救助隊を呼ぶことがある。このような場合にかかった費用は救護された人が負担する。

大会本部に連絡がとれなかった場合、119などで直接救急サービスを呼びだすことを優先してもよい。
- 7) 大会主催者の加入する選手の事故・傷病への補償をする傷害保険の範囲は以下となる。
 - ・死亡、後遺障害 500万円
 - ・入院(日額) 3,000円
 - ・通院(日額) 2,000円

〈通過人数・行方不明者の特定〉

計測チップにより、出走人数完走人数の管理、および各エイドステーション(9箇所)およびウォーターステーション(1箇所)の合計10箇所にて通過チェックを行う。選手の記録とともに氏名の判別もでき、個人を特定することが可能である。また次のポイントへの到着が異常に遅い場合はアラートが発生するシステムを使用する。

〈参加する選手へのルール〉

レース中、自分自身で対応不可能な状況にある他のランナーと遭遇した時、その救助を優先することは選手の義務である。緊急事態の場合、近隣のランナーに積極的に援助を頼んでよい。

〈医療に関して〉

100マイルを超える山岳レースに臨む選手に対して的確な医療を提供し走行をサポートする。ただし、体調不良、怪我などで、これ以上のレース継続が困難な選手に対して、医師は当該選手に中止を宣告する権限を有する。

～予想される体調不良と基本的対応方法～

脱水、熱中症	経口水分補給、塩分・糖分の補給、および安静 上記にて回復がみられない場合は必要に応じて点滴施行
低体温症	保温、温かい飲料、安静 上記にて回復がみられない場合は必要に応じて点滴施行
切傷、擦過傷、挫傷	創部消毒(イソジン、クロマイP軟膏)、ガーゼ保護、ワセリン処置
捻挫、筋挫傷、骨折	湿布、コールドスプレー、テーピング、三角巾固定
胃腸障害	胃腸薬・市販薬(備品) 必要に応じて点滴施行
蜂刺症	ポイズンリムーバーによる徐毒、創部消毒、アナフィラキシーショックの場合は救急搬送
四肢の痙攣、こむら返り	芍薬甘草湯(備品)

エイドステーションにおける医療処置はあくまで簡易的、応急的なものであり、後日専門医の受診が必要と思われる場合は、当該選手にその説明をする。

可能な限りエイドステーションから走り出す選手の状況観察を行い、その時点での走行が危険と思われる選手を見かけた場合は休憩もしくは中止勧告を行う。

エイドステーションでの対応が困難な場合は、病院搬送(運営車輛、救急車)を行う。

点滴施行した場合には当該選手のレース続行は中止となり、その旨、点滴施行前に選手に説明をする。

IV. 自然環境に配慮した持続可能な大会運営のために

I. 行動規範及び配慮事項

1. 持続可能な大会運営のための行動規範

ウルトラトレイル・マウントフジ(UTMF)を持続可能な大会として運営していくため、環境に関する行動規範を以下のよう
に定める。

- 世界中のトレイルランニング愛好者に対し、富士山麓地域においてトレイルランニングの持つ魅力を提供する。そのすべては持続可能であり、環境的、文化的に地域と共存しなければならない。
- 運営において妥当な倫理基準を守り、社会的悪影響を最小に抑える。
- 大会コースの使用においては社会的な公正さを確固たるものにしていく。
- コース周辺地域の環境保護と地域活性化の両者を促進するために、環境と地域文化を尊重し細心の注意を払う。
- 再生できない資源の利用をできる限り減らす努力を行う。
- 環境における限界容量を認識し、細心の注意を払って環境を認識し、それを効果的、継続的なモニタリングを行う。
- 大会を通じて直接的、間接的方法で主催者、選手、トレイルランニング愛好者、地域の方々の富士山麓地域の自然環境保護の意識、行動を変えてゆく。

2. コース設定に関する自然環境への基本的な考え方

- 国立公園特別保護地区や第1種特別地域、それに準ずる自然環境を持つ場所は、原則回避する。
- 部分的に特別保護地区や第1種特別地域等を通過する場合においては植生帯への踏み出しや土壌侵食の影響しない箇所限り部分的に利用する。
- コース設定に関して関係各機関や地域に事前にヒアリングを実施する
- コース設定に際しては「国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取り扱いについて」(2015 環境省)の基準に則って策定する。

3. コース設定の際の配慮事項

- 以下の場所については、コースを設定しないよう配慮する。
 - ① 走行に対して脆弱な場所(湿原、泥濘の箇所、高山植物群落等)
 - ② 保全上重要な自然環境にある場所や、すでに激しい洗掘を受けている場所
 - ③ 崩落や落石の恐れのあるガレ場
- 歩道の複線化や拡幅が懸念される場所についてはコースを外さないよう処置を行う。

4. 大会開催の際の配慮事項

- 他の利用者が多い路線や混雑期を回避する(詳細コース図参照)。
- 開催日時、コース、他の利用者への留意事項等をウェブ等で告知する。
- 歩道はみ出しの懸念がある箇所は、原則追い越し区間として設定する(詳細コース図参照)。
- 選手のシューズ等に付着する外来種の飛来を防ぐため、大会装備品チェック時に汚れた靴については洗浄を実施するほか、コース中トレイルの入り口にはマットを設置する。
- 全区間ストック及びストックの代わりとなる木の枝などの使用を禁止する。
- コースの角をショートカットするなど、トレイルからはずれることを禁止する。
- 自然保護上必要な箇所では、追い越し禁止その他の制限を設定する。
- コース上および全区域で動植物、菌類、岩石などの採取及び損傷を禁止する。
- コース上でのゴミ捨てを禁止する。
- 用便は各エイドステーションのトイレを使用させる。止むを得ないときは携帯トイレを使用させる。携帯トイレを必携品とする。
- 大会終了後にボランティア参加による全コースのゴミ拾いを実施する。

5. その他の配慮事項

- 野鳥の繁殖時期を考慮して大会開催を実施する。
- 大会時雨天時、および土壌のぬかるみが大会3日前に予見または認められる箇所はコースを変更する。
- コース内にはツキノワグマの生息地が含まれる事を認識し、選手・スタッフの安全管理を図る。
- 歩道管理者、土地所有者、関係自治体等と十分な事前調整を行う。
- 必要に応じて専門家から意見を聴取する。

6. モニタリングの実施

- 自然環境等への影響に係るモニタリングを実施する。
- モニタリングにより万一現場の顕著な改変等が見られた場合には、大会主催者が復旧する。



Ⅱ. モニタリング(環境影響モニタリング・利用影響モニタリング)

1. 基本的な考え方

- 当大会のモニタリングは「国立公園内で開催されるトレイルランニング大会等におけるモニタリングの手引き」(平成29年3月 環境省自然環境局国立公園課発表)に基づいて実施する。
- モニタリングには、自然環境・歩道への影響を把握する『環境影響モニタリング』と大会当日の一般利用者への影響を把握する『利用モニタリング』を実施する。
- 環境影響モニタリングとは、対象エリアの状況を大会前後で比較し、変化が自然に起きたものなのか大会によって発生したものかを判断し、大会によって発生した場合、それが許容できる範囲かどうかを評価するものである。
- 利用影響モニタリングでは、大会等による登山者や一般利用者の利用への影響を大会当日のランナーと登山者・一般利用者が混在する地点で観察するとともに、登山者・一般利用者へのヒアリングすることにより把握する。
- 本大会の環境影響モニタリングは、歩道部分の形状の改変の有無と歩道脇へのはみ出しやその植生構造の消失や変化の検証を目的とする。
- モニタリングは長期的に実施することでより有効な評価に繋がる。そのため長期間に渡って継続的なモニタリングを実現できるよう、簡単で費用がかからず、専門家でなくても繰り返し実行できる手法を採用する。
- 大会前にモニタリング計画書を大会後にモニタリング報告書をそれぞれ大会公式サイトにて公表する。
ウルトラトレイル・マウントフジ公式サイト内: 環境ページ
<https://www.ultratrailmtfuj.com/environmental/report/>

2. モニタリング調査

(ア) 環境影響モニタリング調査

実施場所とその概要を表に示す。

エリア番号	エリア名称	自治体	国立公園等の区分	モニタリング箇所	モニタリング方法※2	選定基準※1	2019年大会で実施	備考
1	天子ヶ岳	富士宮市	第3種特別地域	5	①	b e h j k	○	
2	長者ヶ岳	富士宮市	第3種特別地域	3	①②	b f j k	○	
3	熊森山	富士宮市	第3種特別地域	5	①	b c e h	○	
4	根原～端足峠	富士宮市	第3種特別地域	5	①	c d h k	○	
5	佛峠～中ノ倉山	身延町	第2種特別地域	5	①	c e f	○	
6	青木ヶ原樹海	鳴沢村	特別保護地区	5	①	a	○	
7	足和田山-1	富士河口湖町	第2種特別地域	5	①	e f g	○	
8	足和田山-2	富士河口湖町	普通地域	5	①	c f g	○	
9	明神山	山中湖村	普通地域	5	①	e g i j	○	
10	明神山～切通峠	山中湖村	普通地域	5	①	f j k	○	

※1 環境影響モニタリングポイントの選定基準

大会使用コースは、以下の4つの区分に分けられる。

- (1) 登山道・未舗装歩道 人のみの通行を前提にした歩道・登山道(未舗装)。
- (2) 林道・作業道 車両通行可能な林道や歩道(未舗装)
- (3) 送電線遵守路 送電線下の巡視路(未舗装)
- (4) 道路・舗装歩道 舗装された道路及び林道(舗装された歩道も含む)

上記区分①の中から、以下の基準よりモニタリングポイントを選定した。

- a. やむをえずコースに選定した特別保護地区、第1種特別地域、それに準ずる自然環境を持つ地域
- b. 歩道の幅員が狭い地点(手前の幅員が狭く、急に狭くなる地点)
- c. 路面に泥濘が生じている地点・雨天時にぬかるみが生じやすい地点
- d. 顕著な洗掘が認められる地点

- e. 概ね斜度 10 度以上がある登りや下り斜面
- f. 下り方向のカーブや緩やかなカーブが連続している地点
- g. 木製等の階段が設置されている地点
- h. 路面上に樹木の根が張り出している箇所
- i. 希少な植物や動物が確認されている箇所
- j. 登山道不明瞭だが踏み外しや複線化が懸念される箇所
- k. 地権者や地域住民・専門家等により得に要望のあった箇所
- l. 岩が多い箇所
- m. 直前に同じ区間で大会等が開催されている地点

※2 モニタリング方法

①計測、写真撮影

- 日時、モニタリング参加者、天候・気温・標高の記録
- モニタリング地点の緯度・経度、幅員、傾斜角度
- 複数の角度からの概況写真撮影

②土壌硬度の測定

①の計測地点で 1 か所の測線、進行方向に 1m 進んだ地点にもう 1 か所の測線（計 2 か所）を設定し、その測線上に 20 cm 間隔で計測点を設定する。計測点 1 点毎に 5 回の土壌硬度を山中式土壌硬度計を用いて測定する。測定した目盛値（硬度指数：単位 mm）の平均値を大会の前後で比較する。

(イ) 利用影響モニタリングの実施場所およびヒアリング事項
実施場所とその概要を表に示す。

エリア名称	自治体	選定基準	2019 年 大会で 実施	備考
石割山神社駐車場	山中湖村	選手は通行しないが、付近の石割山や大平山登山の起点となるため登山者の利用が多い。コースとなる石割山・大平山で選手と遭遇した登山者からヒアリングをするため。	○	
明神山パノラマ台	山中湖村	選手はパノラマ台駐車場奥を通過する。富士山の展望場所として一般客が多く訪れるため。	○	
天上山山頂	富士河口湖町	付近の観光施設から山頂へのルートがハイキングコースとして人気があり、多くの一般客の来場が予想されるため。		新規ポイント

ヒアリング事項

- ① 性別、年代、都道府県
- ② トレイルランニングを知っているか。
- ③ 本日トレイルランニング大会が開催されることを知っていたか。
- ④ 本日のトレイルランニング大会でランナーと接触しそうになった等、何かトラブルがあったのか。
- ⑤ 本日のトレイルランニング大会でランナーや応援者のマナーなどで気になったことがあったか。
- ⑥ トレイルランニング大会を行う場合、気をつけてほしいことはあるか。
- ⑦ 大会に係る道しるべ(矢印等の進路指示)等により、混乱(分岐点等で自身のルートを惑わせた等)しなかったか。
- ⑧ スタート、ゴール地点等の仮設工作物やトレイルランニング大会の関係者(ランナー含む)が集まっている場所において、通行に支障はでなかったか。

3.調査日程

- ・環境影響モニタリング 事前調査:2022年4月7日(木)~22日(金)(予備日含む)
- ・環境影響モニタリング 事後調査:2022年4月23日(土)~(土)5月7日(土)(予備日含む)
 - * 事後調査に関してはコース通過後なるべく速やかに実施する。
- ・利用影響モニタリング調査:2022年4月23日(土) 10:00~15:00

※参考文献

- ・ 東アジアの自然公園・保護区域における観光事業のガイドライン (2001 国際自然保護連合)
- ・ 国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取り扱いについて (2015 環境省)
- ・ 国立公園内で開催されるトレイルランニング大会等におけるモニタリングの手引き (2017 環境省)
- ・ 生物多様性地域戦略策定の手引き(改定版) (2014 環境省自然環境局)
- ・ 提言書 (2011 狩猟と環境を考える円卓会議)
- ・ 富士山総合環境保全指針 (修正版) (2012. 静岡県)
- ・ ウルトラトレイル・マウントフジ植生保全環境調査概要報告 黒塚・須山口登山歩道編 (2015 富士山エコレンジャー連絡会)
- ・ まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-(静岡県 平成 16 年)
- ・ 山梨県レッドデータブック (山梨県 平成 17 年)